☺「福岡市　子どもと本の日」通信　Ｎｏ．235　　令和６年 10 月 23 日

読書の習慣化

先日、文化庁の令和５年度「国語に関する世論調査」の結果公表を受け、その中に、１ヶ月に読む本の冊数を問う質問（電子書籍は含むが、漫画・雑誌は含まない）において、調査対象（全国 16 歳以上 6000 人　有効回答数 3559 人）の約６割の方が「読まない」と回答したという報道がありました。

文部科学省　「これからの学校図書館の活用の在り方等について（審議経過報告）」の「はじめに」には、

読書することは、「考える力」、「感じる力」、「表す力」等を育てるとともに、豊かな情操をはぐくみ、すべての活動の基盤となる「価値・教養・感性等」を生涯を通じて涵養していく上でも、極めて重要である。また、特に、変化の激しい現代社会の中、自らの責任で主体的に判断を行いながら自立して生きていくためには、必要な情報を収集し、取捨選択する能力を、誰もが身に付けていかなければならない。

すなわち、これからの時代において、読み・調べることの意義は、増すことはあっても決して減ることはない。

このように見たとき、本を読む習慣、本を通じて物事を調べる習慣を、子どもの時期から確立していくことの重要性が、あらためて認識される。また、そのためには、学校教育においても、家庭や地域と連携しながら、読書の習慣付けを図る効果的な指導を展開していく必要があり、とりわけ学校図書館がその機能を十全に発揮していくことが求められる。

と、読書の重要性と学校教育へ求める姿が記述されています。

全国学校図書館協議会の令和５年度の調査では、子どもの５月の１か月平均の読書量は、小学生 12.6 冊、中学生 5.5 冊、高校生 1.9 冊という結果となっています。また、不読者（1 か月に 1 冊も本を読まなかった児童生徒）の割合は、小学生は７%、中学生は 13.1%、高校生は 43.5%でした。この調査の推移を見ると、小学生や中学生の読書量は、徐々に増えているようです。

これは、各方面においての子どもの読書活動推進の賜物だと思います。今後も、小学校や中学校、高等学校において、読書の価値を子ども達に伝え、習慣化を図っていきたいものです。

＜第６回　高等学校　ビブリオバトル福岡県大会＞

１０月２７日　日曜日に、総合図書館にて、高等学校ビブリオバトル福岡県大会が開催されます。高校生のおすすめ本ナンバーワンを決める大会です。会場では、本との新たな出会い、共有する喜びがひろがることと思います。

観戦は、無料となっています。申し込みも不要なので、興味のある方は、総合図書館へお越しください。

※　**観戦申込等は、不要ですが、予選会及び決勝戦を観戦の際は、10 分前までに、ご入場ください。**

期日：　１０月２７日　日曜日
会場：　福岡市総合図書館　３階　会議室
時間：　＜開会式＞　１０：００　～　１０：２０
　　＜予選会＞　１０：３０　～　１２：２０　　参加校を４グループに分けての予選
　　＜決勝戦＞　１３：５０　～　１５：００　　予選を勝ち抜いた４校での決勝戦

＜スタンバード文庫　令和６年度　読み聞かせ講座＞

福岡市総合図書館の事業の一つに、「スタンバード文庫」事業があります。

総合図書館では、市内の公民館に教育委員会より配布した１００冊について絵本の補充を毎年行っています。

公民館には、配布した本を利用した「スタンバード文庫」の本棚やコーナーがあり、子どもから大人まで、誰もが気軽に公民館へ立ち寄り、読書に親しむことができる環境を整備して頂いています。さらに公民館には、「スタンバード文庫」の本を活用し、乳幼児ふれあい教室や子育てサポーター養成講座などの教材として利用されるなど、絵本を積極的に、活用頂いています。

また総合図書館では、希望する公民館と共催で「スタンバード文庫」読み聞かせ講座も開催しています。この読み聞かせ講座は、公民館の「スタンバード文庫」の本を活用し、講座を開催することで、市民の皆様に、「スタンバード文庫」のことや乳児期や幼児期の子どもへの読み聞かせの大切さ、絵本の読み方や選本の仕方等を知っていただき、ご家庭での読書活動を進めてもらうことを目的に行っています。

本年度も、福岡市学校図書館読み聞かせネットワーク、福岡おはなしの会の皆様などのボランテイア団体の方々を講師にお招きし、９月 19 日の城南公民館から、その後、来年の２月まで、市内１９の公民館で開催を予定しています。

●●公民館

秋の深まりを感じる今日、この頃。１０月２７日から、読書週間が始まります。子どもも大人も、秋の夜長、家庭でも楽しく読書に親しまれては、いかがでしょうか。　＜須藤＞

１１月の　こと と 人

11.1　点字の日

　点字は1825年に、フランスのルイ・ブライユが考案し、日本では、教員の石川倉次が使えるようにした。1890年のこの日、日本点字選定会にて、石川の考案した案が採用され、現在の点字となったことを記念して制定された。

11.9　119番の日

　総務省（当時の自治省）消防庁が1987年（昭和62年）に、消防発足40年を記念し制定。日付は消防機関に提供される緊急通報用電話番号「119 番」にちなんでいる。一般の人に防火・防災の意識を高めてもらうことが目的である。

アストリッド・リンドグレーン

（1907.11.14～2002.1.28）

　スウェーデンの作家、児童書編集者。『長くつ下のピッピ』『やねのうえのカールソン』『やかまし村の子どもたち』等、数多くの作品を残す。リンドグレーンの著書は、世界の70 か国語以上に翻訳され、100 以上の国で出版されている。2017 年の集計では、世界で18番目に、多くの言語に翻訳された作家であった。

C・S・ルイス

（1898.11.29～1963.11.22）

　イギリスの作家、学者、中世文化研究者、キリスト教擁護者、信徒伝道者。全７巻からなるハイファンタジー小説『ナルニア国ものがたり』の著者として有名。

※　ハイファンタジージー（英語: high fantasy）
ファンタジー（幻想、幻想的作品）の一種であり、架空の神話的世界で英雄が活躍する大作のことである。『指輪物語　ロード・オブ・ザ・リング』をはじめ、アーサー王伝説やニーベルンゲン物語を現代に蘇らせたような大作が多く、ヒロイック・ファンタジーとも呼ばれる。

マーク・トウェイン

（1835.11.30～1910.4.21）

　アメリカ合衆国の著作家、小説家。『トム・ソーヤーの冒険』の著者として知られ、数多くの小説やエッセーを発表。世界中で講演活動を行うなど、当時最も人気のある著名人の一人であった。ユーモアと社会風刺に富んだ作品で知られる。その他の作品として、『ハックルベリー・フィンの冒険』『王子と乞食』等が有名である。

L・M・モンゴメリ

（1874.11.30～1942.4.24）

　カナダの小説家。『赤毛のアン』の作者であり、本作を第一作とする連作シリーズ「アン・ブックス」で良く知られている。国際的に親しまれる英系カナダ文学の草分け的人物であり、日本で訳書が出版された最初のカナダ文学者でもある。『赤毛のアン』は何度も映画化され、40 か国語に翻訳されるなどの成功を収めた。

図書館員のひみつの本棚　第 222 回

　今月は、宇宙の謎や不思議についての絵本を紹介します。

『ブラックホールってなんだろう？ たくさんのふしぎ傑作集』　嶺重 慎／文　倉部 今日子／絵
福音館書店（2022年）￥1300（税別）

＜お勧め年齢＞
乳幼児☆☆☆　小低学年☆☆☆　小中学年★☆☆　小高学年★★☆　中学生★★★
高校★★★　一般★★★
（★が多い年齢の子どもにお勧めです）

<本の紹介>
　謎につつまれた天体、ブラックホール。「なんでも吸い込んでしまうこわいもの」という印象がありますが、実は最近の研究では星や宇宙の誕生に大きく関わる働きをしている可能性があるとか。そんな謎多きブラックホールのことを、なわとびやすべり台、小さくなった去年の服といった、わかりやすくほのぼのとした身近な例えで楽しみながら学ぶことができます。大人が読んでもしっかりとした知識を得ることが出来るので、ブラックホールについて調べる時は、子どもから大人までまずはこの本からとおすすめしたい一冊です。

<子どもに手渡す時のポイント>
　子どもに手渡す際はぜひ一緒に読んで、宇宙の謎や不思議について語り合ってみてください。広大な宇宙について想像力を広げながら楽しく学ぶことが出来るでしょう。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。